



うずらの卵



(有)高崎クエイル

串田 幹雄氏(高崎支部所属)

Q & A

▼会社概要を教えてください

うずらの卵を生産・販売しています。現在、うずらの飼育羽数は約五〇万羽で日本で二番目の規模になります。

農場は、高崎市新保町・渋川市赤城町の二カ所、高崎市菅谷町にはパックセンターがあります。パック卵販売の全国約十五%が当社の製品です。

当社は昭和二十七年、私の父である串田行雄が鶏一〇〇羽と牛三頭の飼育を田畑の片手間で始め、以後、養鶏を専業とした(有)串田養鶏場を経営してきました。平成元年に養鶏業と合わせ、うずらの卵の生産をスタートし、平成三年に(有)高崎クエイルに社名変更。うずらの卵の生産だけに特化して、私が代表を務めることになりました。

経営理念は「幸せの卵づくり」。同友会の経営指針をつくる会に参加して成文化しました。働く人たちが朝起きて「今日も一日頑張ろう!」と思えるような会社にしていきたいと思っています。



▼この業界に参入した経緯は

私が父の会社(養鶏)に入社後、最新の養鶏設備導入の話が持ち上がりました。しかし、そのためには多額の費用が必要になります。そこで、当時はまだ発展途上にあつたうずらの卵業界に参入することにしました。そのまま養鶏業を続けていたら、大規模な設備投資による効率化の波に押し潰されていたかもしれません。結果的に良い判断だったと思っています。

▼イチオシについて詳しく
北は青森、南は鹿児島まで全

国各地に生卵を販売しています。赤城南麗の大自然に育まれた卵の味は格別です。生・焼・茹など、食べ方は色々ありますが、茹でた卵ならどんな料理のトッピングとしてもマッチします。シンブルに茹でた卵に塩を振って食べるのもオススメです。

また、一口サイズで食べやすく、濃い味で栄養価も非常に高いので、育ち盛りの子供には是非たくさん食べて欲しいですね。

▼顧客の反応はどうですか

群馬県内には、うずら卵の生産者が少ないこともあつてか、「パック卵の販売」を要望する声がお客さまから当社に届きました。その要望に応えるべく、パックセンターの稼働を平成八年に開始し、要望いただいたお客さまはもちろん、多くのお客さまに喜んでもらっています。

営業活動はあまり積極的には行っていませんでしたが、口コミやお客さまからの紹介などにより、おかげさまで徐々に取引先が増えています。

▼課題は何ですか

衛生管理には細心の注意を払っていますが、まだ十分とは言えない部分もあります。ゆくゆくは食品工場と同レベルに改善していきたいと思っています。

また、自分自身が経営者として未熟なので、経営の勉強を怠らないようにするとともに、経営指針の実践・浸透の努力も地道に続けていきます。

▼会社の将来像は

農場を一カ所増やして三農場体制とし、うずらの飼育羽数を現在の五〇万羽から七〇万羽に増やす予定です。また、パックセンターの新設も考えています。そして、日本一のうずらの卵生産者をめざします!

掲載企業随時募集!!

お問い合わせは事務局まで